

# 気候変動に取り組む企業が求める 3つの戦略と9つの施策

～自然エネルギーの電力を利用しやすい国に～

・ RE-Users 課題検討ワーキンググループからの提言

(スライド作成・発表：CDP Worldwide-Japan 高瀬香絵)



質のいい自然エネを、安価で大量に！

安価：Low Price

質：High Quality

量：High Quantity



**3**つの戦略：2030年までに目指す姿

目指す方向の共有：**44%**以上を自然エネで\*

コスト目標：**自然エネ < 化石燃料\*\***

小売価格：**自然エネ100%\*\*\*=他の電源**

\*国全体の発電電力量に占める割合 \*\*太陽光・風力と石炭・天然ガスとの比較

\*\*\*基礎排出係数・調整後排出係数ともにゼロの電力メニューを指す

# 目指す姿を実現するための9の施策

## エネルギー転換の推進

1. 自然エネルギーの開発に関する規制緩和（環境に配慮したうえで）
2. FIT に依存しない自然エネルギーの導入促進
3. 優先給電ルールの改定（自然エネルギーを最優先に供給）

## 送配電ネットワークの改善・強化

4. 日本版コネクト & マネージの早期実施
5. 送電網の強化に予算を重点配分
6. 配電レベルの電力融通を促進（送電事業と配電事業の分離も検討）

## 企業・自治体の利用促進

7. 需要家と発電事業者で PPA（電力購入契約）を可能に
8. 環境価値のトラッキングシステムを整備
9. FIT 非化石証書の入札最低価格を引き下げ



# 自然エネをつかうまでの三重苦

つくる

- つくりたくてもつukれない
- コストが高い
- つくっても抑制されるリスクが高い

つなぐ

- つくってもつなげない

つかう

- 買いにくい。トレーサビリティがない（意味がない）。色々あって高くなる。

# 「つくる」

## なにが問題？

- 農地の転用禁止といった規制で適地でも開発できない。
- 開発者と地元のトラブル
- 洋上風力開発時に漁業従事者との間の調整が困難

- 自然エネコストについて日本が高い状況（FIT依存の業界構造）
- 自然エネコストを高くする政策も導入（託送料の発電側課金についての十分な議論の不足）

- 日本では、自然エネよりも原子力（・水力・地熱）を優先的に利用というルールのため、九州では原子力再稼働もあり、太陽光の出力抑制が occurring。
- これは社会全体としてはコスト増であり、自然エネを増やすのが国策であるなら、逆方向に働いている。

## 提案

1. 規制緩和やゾーニング、地元との間の調整の指針を国が決める！

2. FITに依存しなくても自然エネが導入できるようなコストを極力下げる施策

3. 自然エネ優先給電ルールとする

# 「つなぐ」

## なにが問題？

- 送電線の運用ルールが、先につながっている発電設備が「全て稼働」を前提としており、本当は稼働していない設備分（例えば、稼働していない原子力発電所、火力発電所）も抑えられてしまっている。
- これまで発電所ではなかったところに自然エネの資源が多い場合が多い。この場合、長期的に送電網の整備が必要となってくる。
- 家庭や工場・店舗など、消費する場所で発電をする場合、ご近所で融通しあうことで、送電網まではつかわず、配電レベルだけで十分となることもある。
- しかし、現在は配電線だけ使おうとしても送電まで使ったとして託送料がかかるし、そもそも逆潮流の制限があったりして融通しにくい。

## 提案

4. まずはつないで、うまく運用する「コネクト&マネージ」を迅速に実施する
5. 送電網の強化に予算を重点配分
6. 配電網を利用しやすい施策を整備、送電部門と配電部門の分離も。

# 「つかう」

## なにが問題？

- 日本では、小売電気事業者からしか送電網を使った電力を買うことができない。
  - 間に事業者が入ることで高コストになりやすい。
- 
- 非化石価値証書は、再エネであるということしかわからず、どの電源であるかなど、トレーサビリティがなく、「電気を選んで消費する」ことができない。
  - バイオマスについての調達基準がある企業もあり、また不適切な開発をした再エネを購入したくない企業もある。
- 
- FIT非化石価値証書は最低価格が1.3円/kWh。海外では、再エネ証書は0.1~0.2円/kWhの国も多い。
  - いくつかの事業者が1.3円で購入し、2円のプレミアムを付けて非化石電源メニューを売っている。
  - 再エネの高コスト構造を助長。

## 提案

7. 需要家が直接発電事業者から電気を買えるように (PPA)
8. 情報基盤としての再エネ属性トラッキングシステムを整備 (1国1システム)
9. FIT非化石価値証書の最低価格を引き下げる

# 目指す姿を実現するための9の施策

## つくりたくてもつukれない

1. 古い規制で開発がすすまない！つくりやすい枠組みを！
2. もうFITは卒業、のためにコストを下げる方策を
3. 再エネは一度設置したら利用が吉。優先的に使おう！

## つかいにくい、高くなる

7. ほしい人が発電所と直接契約できればいいのに。  
(もっと選択肢が増えて、中間マージンも減るかも。)

8. どの電気を買ったかのトラッキングがないと、  
いい再エネを選べない・・・。

9. 再エネ買おうとすると非化石価値証書1.3円以上・・・。  
どうしても色々あって高くなる。最低価格を下げるべき。

## つくってもつなげない

4. 空き送電線を有効活用しよう
5. 将来的には送電線を増強しないといけない。予算をつけよう。
6. 送電線をつかわずにも、ご近所でやりとりしやすくすればいいんじゃない？配電網の活用をやすく。

# RE-users課題への対応と残る課題

赤字：今日お話を聞けなかった点 青地：さらに対応を伺いたい点

	課題	対応	疑問点
つくる	古い規制、ゾーニングがない	プッシュ型の系統増強 (資源量によるゾーニング)	
	コストを下げる方策(非FIT)	競争の促進、市場への統合の新制度	新制度とは？発電側課金でのノンファームでもkWでの負担配分の妥当性は？
	再エネ優先接続		
つなぐ	コネクト & マネージ	東電が実施	他の地域では？
	送電線増強への予算配分	FIT方式等、次世代ネットワーク見据えて検討中	
	配電網の活用しやすく	電気事業法での位置づけ	託送料は？
つかう	小売を介さない発電と需要家の直接契約		非化石価値証書の需要家直接購入
	トラッキングがないと	FITは実証	非FITは？
	現状、FIT非化石価値証書最低価格1.3円/kWhは高すぎる		



目標の拡大



**RE-Users**

自然エネルギーユーザー企業ネットワーク

**サミット2020**



自然エネルギー財団  
RENEWABLE ENERGY INSTITUTE

# RE-Users 課題検討ワーキンググループ

## 【事務局】

公益財団法人 自然エネルギー財団

一般社団法人 CDP-Worldwide Japan

公益財団法人 世界自然保護基金(WWF)ジャパン

## 【参加企業】(50音順)

花王、コニカミノルタ、ソニー、大和ハウス工業、ナブテスコ、野村総合研究所、富士通、丸井グループ、三菱地所、ユニリーバ・ジャパン、リコー ほか (公表可能な企業のみ記載)

この提言は自然エネルギーの電力の利用拡大に取り組む企業が情報共有の場として参加する

「自然エネルギーユーザー企業ネットワーク」(RE-Users)の活動の一環で、2019年4月から開始した課題検討ワーキンググループに参加した大手企業20社の意見をもとに、事務局が作成したものである。